

サトウハチロー

亡き母よ・・・一

足にくずれる白い砂

えりあしにしみる松の白い

ああ

風は吹く 風は吹く 風ぞ吹く

子守唄は

二つとなきものぞ

亡き母よ

サトウハチロー

亡き母よ・・・二

うらぶれて

ただただ 悲しき想いなり

松風を

遠くに聞くの想いなり

秋の風ともなり

我にくちづけけたまえかし

亡き母よ

サトウハチロー

母ありてわれかなし

母ありて われかなし

母ありて われうれし

母ありて われよぢれ

母ありて われすなおなり

母ありて われ寒し

母ありて われあたたかなり

これが不思議ではないのか

不思議です

サトウハチロー

かくまき

古びたる

茶色のかくまきの なつかしや

そのたれさがりし房は

なんとよき心地ぞ

その足どりの

わが母にも似て

町をゆく

古びたるかくまきの なつかしや